

発話キャラクタに見る伝聞表示形式の選択傾向

— [ソウダ] [ンダッテ] の出現形の選択に関与する要因 —

蓮沼昭子（姫路獨協大学・創価大学 名誉教授）

hasunuma415@gmail.com

【要約】

伝聞表示形式の [ソウダ] と [ンダッテ] の出現形に、「そうだ」「そうです」と「んだって」「んですって」がある。本稿は映画・テレビドラマの脚本のセリフ、および現実の日常会話で使用された伝聞表示形式の出現形を観察し、その選択要因の分析を試みるものである。伝聞表示形式の選択には、文体・媒体に加え話者の「発話キャラクタ」（定延 2020）の関与が考えられるが、特定の話者における特定の出現形に対する選好と回避の現象に対し、その動機を「格」「品」「年」「性」といった話者のもつ発話キャラクタと関連づけて分析し、その特徴を明らかにする。

1. はじめに

小西（2011）は、伝聞表示に用いられる「そうだ」不使用の要因は、親疎関係ではなく文体であるとし、「(んだ)って」¹がその代替表現として機能しているとの指摘を行っている。さらに「伝聞」と「引用」を連続的なカテゴリーとして統一的に捉える仮説を提示している。

一方、蓮沼（2024）、すなわち「前稿」では、「伝聞」と「引用」の非連続性を想定し、[ソウダ] [ッテ] [ンダッテ] に対し、小西とは異なる観点から分析を行った。すなわち、[ソウダ] は伝聞に固定、[ッテ] は引用寄りに位置するのに対し、[ンダッテ] は伝聞と引用の両面性を示す現象の存在を指摘し、複合辞化した [ンダッテ] は伝聞を表示するのに対し、[ノダ] と [ッテ] に分解可能な「んだ+って」はノダ文の引用を表す形式であると結論づけた²。だが、時間や紙幅の制約により、小西（2011）の仮説に対する検討は後の課題として見送る結果に終わった。

本稿は、この残された課題に取り組み、前稿の分析をいっそう確かなものにするための再挑戦である。本稿では、小西のデータとは質的に異なる、映画・ドラマのシナリオや日常会話の [ソウダ] [ンダッテ] の例を観察し、「文体」「媒体」という 2 要因に、新たに「発話キャラクタ」の観点を追加し、談話における 2 形式の出現形の選択状況を複数の要因と関連づけて観察・分析する。こうした作業を通し、2 系列間に観察される伝聞表示形式としての本質的な差異の解明への

¹ 小西はレンマ（辞書項目に当たる形式の代表形）と実際の出現形を括弧と文字の種類によって区別し、前者を [片仮名]、後者を「平仮名」によって表記し分けている。ただし [ッテ] [ンダッテ] に対しては、2 つを融合させ [(ンダ)ッテ] というレンマ表記で示している。「って」「んだって」が共に「そうだ」の代替表現として機能している現象が認められるものの、その差が明らかでないことがその理由である。本稿でも、基本的に小西の表記方法を採用することにするが、[ッテ] [ンダッテ] を別々のレンマとして区別する。そして当面の考察対象は [ンダッテ] に限定し分析を進める。なお、[ッテ] の用法の多様性については、前稿で部分的に取り上げているので参照されたい。

² 本稿では「引用」「伝聞」に対する独自の定義づけが準備できていないため、渋谷（2011: 2）の定義、すなわち「引用とは他者の発話を（話し手がそれをどの程度変容するかにかかわらず）聞き手に向けて再現するもの、伝聞とはその他者の発話の内容を話し手が受け入れて／知識としてたくわえてそれを聞き手に伝えるもの」を、当面、援用しておきたい。近い将来、独自の基準による再定義を試みたいと思っている。

接近を試みることにしたい。

本稿の構成は、以下の通りである。2 節では小西（2011）の分析を手短に紹介し、問題の所在を指摘する。3 節は、4 節の分析の事前準備を目的とする節で、[ソウダ]と[(ンダ)ッテ]の形態・統語・語用論的差異に対する先行研究、および筆者の観察の整理を行う。4 節では本稿が実施した調査とその結果の概要を紹介する。5 節では調査結果に対し、用例の観察に即しての分析と考察を行う。6 節は全体のまとめである。

2. 問題の所在

この節では小西（2011）の調査の概要を紹介し、分析結果に対する疑問点・問題点を提示しておきたい。

小西（2011）は、書き言葉と話し言葉のコーパスにおける大量の伝聞 [ソウダ] の使用例の量的調査、および小規模のアンケート調査による [ソウダ] と [(ンダ)ッテ] の使用状況の質的調査を実施し、「そうだ」「そうです」「(んだ)って」を伝聞の出現形の文体的バリエーションとして捉える観点を提示している。すなわち、[ソウダ] は丁寧体基調のジャンルに頻出し、「そうです」のような丁寧体で使用されやすいのに対し、[(ンダ)ッテ] は [ソウダ] が使用されない場面で使用され、「(んだ)って」は「そうだ」と共存せず「そうだ」の代替表現として機能していると結論づけている。

小西は以上の観察結果をさらに展開し、「伝聞」と「引用」を連続的なものと捉える仮説を提起している。すなわち、「伝聞」と「引用」を区別する日本語学的な捉え方ではなく、日本語教育における「伝聞」を「他者からの情報であることを示す」という機能をもった表現に位置づけ、伝聞と引用を連続的なカテゴリーとして統一的に捉えようとする観点を提起である。

ここで、小西が「質的調査」と呼ぶ、[ソウダ] [(ンダ)ッテ] の出現形に対するアンケート調査とその結果を紹介し、それに対し本稿の筆者が抱く疑問点を提示しておきたい。

この調査は「学内で実施される新入生歓迎会について、歓迎会の担当者から聞いた内容を親しいA（同級生または後輩）と、あまり親しくないB（先輩）に伝える」という課題を設定し、大学院生 10 名（女性 8 名、男性 2 名；20 代 7 名、30 代 3 名）の調査協力者に回答を依頼し、得られた回答を分析したものである。伝達方法は、音声（調査実施者と協力者の会話の文字化）、および文字（メール）の 2 種で、文字での回答は全員から、音声での回答は 6 名から得ることができた。表 1 はその結果の数値を整理したものである（小西（2011: 174）の表 5 のレイアウトを若干変更して再録。網掛は本稿の筆者による）。

表 1 [ソウダ] [(ンダ)ッテ] の出現形

相手・媒体 出現形	A（親）			B（疎）		
	音声	文字	合計	音声	文字	合計
「そうです」	0	3	3	12	2	14
「そうだ」	0	0	0	0	0	0
「だそうな」	0	1	1	0	0	0
「(んです)って」	0	0	0	0	0	0
「(んだ)って」	5	9	14	0	0	0

小西は表1の観察結果を次のa～cのように整理している。

- a. 「そうだ」「(んです)って」はどの相手・媒体でも使用されていない。(網掛けした行)
- b. [ソウダ]はB(疎)宛の使用が多く、大部分が「そうです」である。
- c. [(ンダ)ッテ]はA(親)宛の使用が多く、その全ては「(んだ)って」である。

小西によれば、[ソウダ]の使用・不使用に関与する要因になっているのは、相手との親疎関係ではなく文体であり、「そうだ」の代替表現として「(んだ)って」が機能していると結論づけている。そして、それぞれの使い分けは、媒体と文体を2変数とする伝聞の出現形の例として分析可能であるとし、次の表2の形に整理している。

表2 媒体と文体の観点から見た伝聞の出現形 (小西 2010: 175 表6)

		媒体	
		音声	文字
文体	丁寧体	そうです	そうです
	普通体	(んだ)って	そうだ

小西の結論は、大量のコーパスデータでの使用傾向の調査、および小規模の質的調査から実証的に導かれたもので、信頼の置けるものであるが、上記の質的調査結果に対する説明には、解決すべき問題点・疑問点がなお残されているように感じられる。具体的には以下の4点はその代表的なものである。

1. 表1の質的調査の協力者は20代から30代の大学院生の男女であり、属性のバリエーションが少なく回答者数も少ない(10名～6名)。したがって、母語話者の全体の使用傾向を示しているとはいえない。
2. 「(んです)って」の使用がゼロであった理由は、回答者の属す集団や年齢の影響が強く働いている可能性がある。
3. 「そうだ」「(んです)って」の使用がゼロである理由は、文体と媒体という変数以外の要因が働いている可能性がある。
4. 出現形の「って」「(んだ)って」「(んです)って」を、[(ンダ)ッテ]で一括するのは不適切である。「って」は[ッテ]、「(んだ)って」「(んです)って」は[ンダッテ]というレンマで区別して表記するのが適切である。

以上の問題意識を踏まえ、蓮沼(2024)では、「伝聞」と「引用」は別カテゴリーのものという想定に立ち、分析を行った。その際、上記4で示した考えに基づき、[ッテ][ンダッテ]を別々のレンマに設定したうえで、[ソウダ]と[ンダッテ]に的を絞り観察・分析を行った。[ッテ]は多様な用法をもち、用法の特定と分類には音調の観察や長い文脈の読み込みが必要なため、限られた時間での分析は不可能だと考えたからである。

本稿も上記と同様の理由により[ッテ]の分析は見送り、[ンダッテ]と[ソウダ]に的を絞り観察と分析を行う。データには映画・ドラマのシナリオに加え、現実の会話データである『日本

語日常会話コーパス』(CEJC) を使用し、創作された擬似的話し言葉と現実の発話における [ソウダ] [ンダッテ] の使用状況を対照的な観点から観察する。こうした作業を通し、小西 (2011) の量的・質的調査の結果が示唆する事実に対し、いっそう現実に即した説明を目指す。

3. [ソウダ] と [ンダッテ] の形態・統語・語用論的差異

具体的な観察・分析に入る前に、伝聞用法の [ソウダ] と [ンダッテ] 2 形式間の形態・統語・語用論的な差異を概観しておきたい。表 3 はそれぞれの特徴を対照させ整理したものである³。

表 3 [ソウダ] [ンダッテ] の形態・統語・語用論的差異

特 徴	[ソウダ]	[ンダッテ]
① 文中での位置	文末・従属節末 (～が/けれども/し/から/ので 等)	文末 (発話末) のみ
② 形式自体がとり得る文体	普通体「そうだ」 丁寧体「そうです」	普通体「んだって」 丁寧体「んですって」
③ 使用されるジャンル・文体の傾向	親しくはない人に耳よりの伝聞情報を紹介するような談話 (文字言語・音声言語とも)。文体は丁寧体の「そうです」に偏る。	主に音声言語を媒体とする親しい相手に対する伝聞情報の伝達。「んだって」は「そうだ」の代替表現とされる。「んですって」の丁寧度は「そうです」よりも低く、目上の人物には使用しにくい。
④ 形式自体の活用型	名詞型だが、基本的に活用はしない。昔話の文末の「そうな」は、文語「そうなり」の終止形「なり」の「り」落ちとされ、連体形とは見なされない。	活用しない
⑤ 前接述語が取り得る認識的モダリティ	基本的に確言形 まれに [カモシレナイ]	基本的に確言形 まれに [カモシレナイ] [ラシイ] [ミタイダ]
⑥ [ノダ] が接続可能な位置	形式の前と後 [ノダソウダ] [ソウナノダ]。ただし同時の使用はまれ。	複合辞化した結果 [ンダッテ] に固定。[ノダ] を伴わない [ッテ] は別形式として扱う。
⑦ 後接可能な文末表現	よ・ね・わ・デハナイカ	よ・ね・さ・ば
⑧ 共起可能な疑問表現	確認要求	確認要求・WH 疑問文

³ 伝聞表現の [ソウダ] [ンダッテ] の差異に対する前提的知識の整理が目的であり、参照した先行研究、および筆者が行った観察の詳細の説明は省略する。なお、[ソウダ] における [ノダ] の前接の有無による意味・用法の違いについては捨象している。

4. 本稿の調査とその結果

この節では本稿が行った調査およびその結果の概要を紹介する。データ(4.1)、分析方法(4.2)、調査結果(4.3)の順に解説し、最後にそのまとめを行う(4.4)。

4. 1 データ

映画とテレビドラマの脚本(A)、および日常会話を収録したコーパス(B)を使用し、その中の伝聞[ソウダ]と[ンダッテ]の例を採取した。データの詳細は以下の通りである。

(A) 脚本

山田洋次ほか脚本 映画『男はつらいよ』全作品 48 作 (1969 年～1995 年に公開)

吉田紀子脚本 テレビドラマ『Dr. コトー診療所 2006』全 11 話 (2006 年 10 月～12 月にフジテレビ系で放映)

(B) 自然談話コーパス

国立国語研究所『日本語日常会話コーパス』(CEJC) 有償版 (2022 年 3 月に最終公開)

(A) に挙げた映画やドラマの脚本のセリフは「話されることを前提とした書き言葉」(松下・丸山 2018: 257) と言われるように、自然談話の例とは根本的に異なるものだが、その一方で、登場人物の典型的な話しぶりを表現しようという脚本家の意図が反映されており、発話キャラクターの類型的特徴の抽出が比較的容易であるという利点をもつ。(B) は、自発的に発話された現実の日常会話が集積されたコーパスで、その特徴やデータに関する詳しい情報が小磯ほか(2022)で提供されている。有償版では、会話の転記スクリプトや会話場面の画像と音声を提供されているため、本稿では有償版を使用した。

4. 2 分析方法

分析は次の手順で進める。まず、3つのデータにおける[ソウダ][ンダッテ]の例の量的分布の全体像を明らかにする。次に、各データにおける[ソウダ][ンダッテ]の例を出現形に基づき分類し、それぞれの使用数を発話者の性別により整理する。5節で行う、出現形と発話キャラクターを関連づけた分析の下準備がその目的である。「発話キャラクター」の概念、およびそれに対する分析方法の詳細は、5節で改めて取り上げる。

4. 3 調査結果

3つのデータにおける[ソウダ][ンダッテ]の使用状況を、3つの小節に分けて解説する。すなわち、[ソウダ][ンダッテ]の使用実態の全体像(4.3.1)、[ソウダ]の文体と話者の性別に基づく使用状況(4.3.2)、[ンダッテ]の文体と話者の性別に基づく使用状況(4.3.3)である。3つのデータの略称として「寅」「コトー」「CEJC」を使用する。

4. 3. 1 [ソウダ][ンダッテ]の使用実態の全体像

最初に用例の採取方法について解説しておきたい。

まず「寅」は、CD-ROMのファイルをサクラエディタのGREP検索機能を用い、文字列の指定により検索を実施し、目視により対象例の絞り込みを行った。品詞指定ができないため、ヒットし

た例の多くは指示詞「そう」や様態「そう」の例であった。「コトー」は電子書籍リーダーの Kindle アプリの検索機能を用い、文字列の指定により検索を実施し、目視により対象例の絞り込みを行った。2つのデータでの文字列の指定方法やヒット件数の詳細は省略するが、表4に示した数値はそれぞれの絞り込み後の使用数である。

「CEJC」は検索ツール中納言を使用し検索を実施した。伝聞「そう」には短単位・語彙素検索、「んだって」「んですって」には長単位・語彙素検索を実施した。それぞれの検索条件、およびヒット件数は以下の通りである。

「そう」：語彙素 [そう] 品詞 [名詞-助動詞語幹] ⇒ ヒット件数 35 件

「んだって」：語彙素 [のだ] 品詞 [助動詞]、語彙素 [って] 品詞 [副助詞] ⇒ ヒット件数 1017 件

「んですって」：語彙素 [のです] 品詞 [助動詞]、語彙素 [って] 品詞 [副助詞] ⇒ ヒット件数 134 件

中納言の品詞分類において、「名詞-助動詞語幹」に分類されるのは伝聞「そう」に限られるため、品詞を上記に指定すれば、伝聞「そう」のすべての例の採取が可能である（様態「そう」は「形状詞-助動詞語幹」）。ヒットした35件の「そう」を目視により絞り込んだ結果、29例の伝聞「そう」の例を得たが、表4の数値はそこから非終止形の「そうで」などの5例を除いた数値である。「んだって」「んですって」に対しても目視による絞り込みを行った結果、それぞれ840件、97件の対象例を得た⁴。表4は以上の結果をまとめたものである。「寅」と「CEJC」についてはグラフ（図1）も追加しておく⁵。

表4 3つのデータにおける [ソウダ] [ンダッテ] の文体別使用数

伝聞形式	文体	出現形 ⁶	寅	コトー	CEJC
[ソウダ]	普通体	「そうだ」	11	5	1
	丁寧体	「そうです」	23	9	23
	合計		34	14	24
[ンダッテ]	普通体	「んだって」	202	14	840
	丁寧体	「んですって」	36	2	97
	合計		238	16	937

⁴ 「んだって」「んですって」の非伝聞用法として対象外にした例は、「ん{だ/です}って言う/思う/知る etc.」（ノダ文の引用）、「ん{だ/です}っていう話/感じ etc.」（連体修飾節）、「ん{だ/です}ってば」（言明用法）などがその代表的なものである。

⁵ データ量を時間数で比較すると、「寅」全48作の上映時間の合計は約81時間半（ウィキペディアの情報に基づき計算）、「コトー」11話の放映時間の合計は約9時間半（動画配信サイトFODの情報に基づき計算）、「CEJC」は収録時間200時間の会話データである。つまり3つの中で、「コトー」のデータ量が一番小さい。そこで量的な観察を行う場合は、主に「寅」「CEJC」の数値を参照し、「コトー」は質的な観察の際に参照することにした。ちなみに「寅」「コトー」では、脚本のセリフとそれを演じた俳優のセリフは一致しないことが多いが、本稿の観察は脚本テキストに基づく。また、上昇調を表す「？」の有無が実際の演技に反映されているとは限らず、それが付されていなくても上昇調がとられた発話が観察される。

⁶ 「出現形」にはそれぞれの代表的な形式を挙げているが、「んだってね」「そうですが」等、終助詞や接続助詞が後接したものもそれぞれの使用数に含めている。ただし、非終止形の「そうで」「そうφ」等は合計数から除いている。なお「コトー」での「そうよ」2例は普通体「そうだ」の例に含めカウントしている。

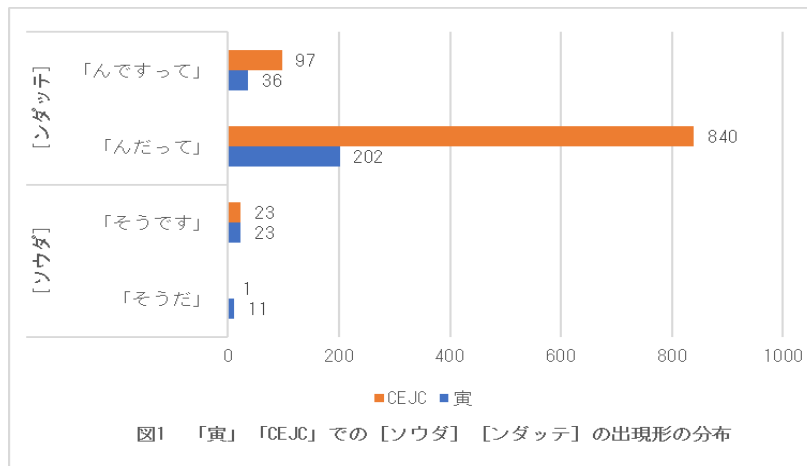


図1で明らかな通り、「寅」「CEJC」のどちらにおいても、「ソウダッテ」は「ソウダ」よりもかなり優勢で、特に「CEJC」では普通体の「んだって」の使用数が突出している。一方、丁寧体「そうです」は一定数使用されているが、普通体「そうだ」の使用は非常に少なく、「CEJC」ではわずか1例である。

4. 3. 2 「ソウダ」の文体と話者の性別に基づく使用状況

「ソウダ」の出現形の文体と話者の性別に基づく使用状況を、「寅」「コトー」「CEJC」の順に表に整理して示す。

表 5-1 「寅」での「ソウダ」の使用状況

文体	出現形	男	女	小計	話者別使用回数（男/女） ⁷
普通体	そうだ	4	0	4	散歩・寅・御・ひょう一郎各1
	そうだね(え)	3	1	4	御2・社1/つ1
	そうだな	2	0	2	寅・御各1
	そうだから	1	0	1	博1
	小計	10	1	11	
丁寧体	そうです	3	2	5	吉岡1・博2/アシスタント・こずえ各1
	んだそうです	1	2	3	青年A1/さ2
	そうですよ	4	1	5	寅2・竜・博各1/千代1
	そうですね	1	1	2	寅1/朋子1
	そうですな	3	0	3	御2・喜介1
	そうですが	3	0	3	博2・寅1
	そうですけどね	1	0	1	馬場1
	そうですから	1	0	1	登1
小計	17	6	23		
合計		27	7		34

⁷ 略称名と登場人物名の対応関係は次の通りである。寅：寅次郎、竜：竜造（おいちゃん）、社：タコ社長、御：御前様、さ：さくら、つ：つね（おばちゃん）

表 5-2 「コトー」での「ソウダ」の使用状況

文体	出現形	男	女	小計	話者別使用回数（男/女）
普通体	そうだ	2	0		坂野・正一各1
	んだそうだ	1	0		コトー1
	そうよ	0	2		沙知子（コトーの母）2
	小計	3	2	5	
丁寧体	そうです	5	1		コトー3・和田2/ミナ1
	そうです{ね/よ}	2	0		コトー各1
	そうなんです	1	0		和田1
	小計	8	1	9	
合計		11	3		14

表 5-3 「CEJC」での「ソウダ」の使用状況

文体	出現形	男	女	小計	話者別使用回数（男/女）
普通体	そうだ	1	0		聡太郎 ⁸
	小計	1	0	1	
丁寧体	そうです	5	5		かっちゃん・永井・小川・松川・藤山各1 /萌・安村・清水・桃子・折本各1
	そうですよ	0	4		/島村2・チコ・島井各1
	そうですね	1	0		溝口
	そうですが	0	1		/日野
	そうじゃないですか	0	1		/島村
	そうなんです	2	0		坂井・牧島
	そうなんです	0	1		/島井
	そうなんですよね	1	0		栗木
	そうなんですけど	1	0		野口
	そうなんですけれど	0	1		/日野
	小計	10	13	23	
非終止形 ⁹	そうφ	1	0		早川（丁寧体基調）
	そうで	3	0		聡太郎（普通体基調）・栗木・久米田（丁寧体基調）
	そうなんで	0	1		/岩瀬（丁寧体基調）
	小計	4	1	5	
合計		15	14		29

⁸ 「CEJC」の話者名はすべて転記テキストで使用されている仮名をそのまま使用している。

⁹ 表4では省いた「非終止形」の使用数をここでは含め、その使用者の会話における基調文体を話者名の後に示す。

4. 3. 3 「ンダッテ」の文体と話者の性別に基づく使用状況

「ンダッテ」の出現形の文体と話者の性別に基づく使用状況を、「寅」「コトー」「CEJC」の順に表に整理して示す。なお「CEJC」は用例数が他の2つよりも多いため、個別の話者の使用数ではなく、話者の性別・年齢別の使用回数の合計を一覧表とグラフに整理して示す。

表 6-1 「寅」での「ンダッテ」の使用状況

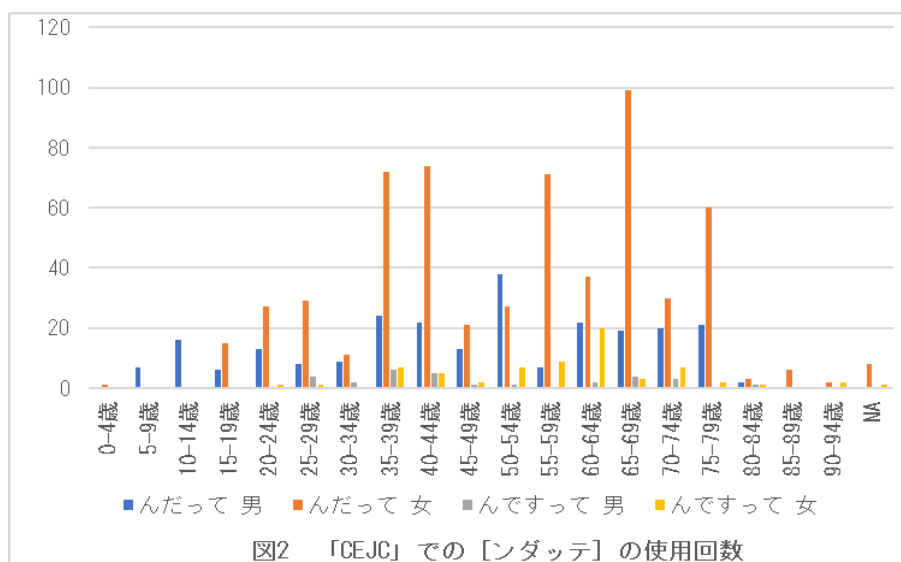
文体	出現形	男	女	小計	話者別使用回数（男/女）
普通体	んだって	33	92		寅 17・社 6・博 4・満男 3・A・竜・茂各 1/さ 61・つ 14・泉 3・あけみ 2・他の女性 12 名各 1
	んだってさ	19	9		寅・社各 5・竜 4・博 3・男 B・葛西各 1/つ 8・リリー 1
	んだってよ	11	1		寅 8・竜 2・備後屋 1/つ 1
	んだってね(え)	4	7		社 2・寅・院長各 1/みどり・薬屋・豊子・つ・真知子・泉・光枝各 1
	んだってな(あ)	10	0		寅 5・社 4・竜 1
	んだって?	8	8		社 4・寅・備後屋・竜・満男各 1/さ 3・美保・つね・真知子・聖子・桃枝各 1
	小計	85	117	202	
丁寧体	んですって	1	21		博 1/さ 10・女中 2・みどり・歌子・雅子・めぐみ・圭子・ふじ子・若菜・久美子・鞠子各 1
	んですってよ	0	1		みどり 1
	んですってね(え)	1	8		寅 1/さ 3・志津・春子・貴子・京子・久子各 1
	んですって?	1	3		博 1/さ 2・礼子 1
	小計	3	33	36	
合計		88	150		238

表 6-2 「コトー」での「ンダッテ」の使用状況

文体	出現形	男	女	小計	話者別使用回数（男/女）
普通体	ん{だ/じゃ}って	6	4		坂野・正一各 2・小沢・コトー各 1/茉莉子 2・春江・ひな各 1
	んだってな	1	0		邦夫 1
	んだってね	1	0		コトー 1
	んだって?	2	0		剛利 2
	小計	10	4	14	
丁寧体	んですって	0	2		/ミナ・推定女性各 1
	小計	0	2	2	
合計		10	6		16

表 6-3 「CEJC」での「ンダッテ」の使用回数

年齢	んだって		んですって	
	男	女	男	女
0-4 歳		1		
5-9 歳	7			
10-14 歳	16			
15-19 歳	6	15		
20-24 歳	13	27		1
25-29 歳	8	29	4	1
30-34 歳	9	11	2	
35-39 歳	24	72	6	7
40-44 歳	22	74	5	5
45-49 歳	13	21	1	2
50-54 歳	38	27	1	7
55-59 歳	7	71		9
60-64 歳	22	37	2	20
65-69 歳	19	99	4	3
70-74 歳	20	30	3	7
75-79 歳	21	60		2
80-84 歳	2	3	1	1
85-89 歳		6		
90-94 歳		2		2
NA		8		1
小計	247	593	29	68
割合	29.4%	70.6%	29.9%	70.1%
合計	840		97	



4. 4 まとめ

4.3.2 節と 4.3.3 節での「寅」と「CEJC」の例の観察から明らかになった事実を箇条書きにまとめて以下に示す（「コトー」の例については省略する）。

- 1) 「ソウダ」は「ンダッテ」よりも総じて使用頻度が低い。普通体「そうだ」は特に使用が少なく、その使用者はほとんど男性である。
- 2) 「ンダッテ」は「んですって」よりも高い頻度で使用される。前者の后者に対する使用倍率は、「寅」では約 5.6 倍（202÷36）、「CEJC」では約 8.7 倍（840÷97）である。
- 3) 「寅」では、女性話者の「んですって」の使用頻度が目立って高い（男 3 回に対し女 33 回）。
- 4) 「ンダッテ」は、女性のほうが男性よりも高頻度で使用する傾向があり、「CEJC」でそれが顕著である（図 2）。「CEJC」での「ンダッテ」「んですって」のおおよその使用比率はどちらの形式も、男 3 に対し女 7 である（表 6-3）。年代別の使用傾向としてはどちらの形式も中高年の女性が多用する傾向が認められるが、このグループの語数・発話時間が他のグループより多いことがその一因である可能性がある¹⁰。

5. 調査結果に対する分析と考察

前節で素描した調査結果に対し、この節では次の 4 点を課題に掲げ、分析・考察を進めたい。

1. 「そうだ」は総じて使用頻度が少ないが、それはなぜか。「そうだ」を使用する話者にはどのような人物特性が認められるか。
2. 「ンダッテ」の使用頻度の高さに比べると、「んですって」の使用は限定的である（「寅」「CEJC」の「ンダッテ」の使用数全体に占める「んですって」の割合は約 12%）。「んですって」の話者にはどのような人物特性が認められるか。
3. 「ンダッテ」を「そうだ」の代替表現と捉えるのは適切か。

¹⁰ 小磯ほか（2022: 25）の「図 3.2 会話者の性別・年齢別の語数（千語）・発話時間（時間）」によれば、50 代女性、40 代女性が全体の 1 位・2 位を占める。

4. 「んだって」の使用を回避し「んですって」「そうです」を愛好する話者が観察される。「んだって」不使用の動機はいかなるもので、話者はどのような特性をもつ人物か。

本稿では、伝聞表示形式の選択には、媒体・文体に加え、「発話キャラクタ」(定延 2020) が関与しているという想定に立ち、上記の課題の分析に取り組む予定だが、その前に定延(2020)が提起している「発話キャラクタ」の概念について簡単に紹介しておきたい。

定延は(2020)は、自らが定義する「キャラクタ」を「キャラ3」と呼び、「病理的な事情なしに、状況に応じて非意図的に変わる人間の部分」(p. 60) という定義を与えている。そして、《在来》の「発話キャラ(クタ)」の分類枠組みとして、以下の①～④の「尺度」、およびその代表的な「値」(:の右側に示されたもの)を提示し、これらの変数の組み合わせによって発話キャラクタの記述が可能となるような分析装置を提示している(p. 226)。なお、①～④は本稿の筆者が付加したものである。

- ① 品:[上品]～無指定～[下品]
- ② 格:[別格]～[格高]～無指定～[格低]
- ③ 性:[男]～無指定～[女]
- ④ 年:[老人]～[年輩]～無指定～[若者]～[幼児]

本稿の結論を先取りして述べれば、「そうだ」の選択には、「格」「性」「年」、「んですって」の選択には「品」「性」「年」という尺度が関与的であると考えているが、以下では定延の枠組みを援用しつつ、上記の課題に対し用例を挙げながら分析と解説を試みることにしたい。

5. 1 「そうだ」の使用者の発話キャラクタ

最初に「そうだ」を使用する人物の発話キャラクタを観察しておきたい。「そうだ」は、[格高][男][老人]という発話キャラクタと強い結びつきを示す。そもそも「そうだ」の使用者は極めて限定的で、3つのデータでの使用数は、「寅」11例、「コトー」3例、「CEJC」1例で、合計15例に過ぎず、その使用者は1例を除き、すべて男性話者である¹¹。

定延によれば、「格」とは「経験や力や地位などから総合的に醸し出されるもの」(p. 230)で、代表的な値は[別格][格高][格低]の3つである。「そうだ」の使用者として典型的なのは、「寅」に登場する御前様である。御前様は葛飾柴又の題教寺(通称柴又帝釈天)というお寺の住職で、[格高][男][老人]という値が該当し、知識や徳を備えた高僧として、周囲の人たちから尊敬を受けている人物である。御前様は「そうだ」「そうだな」を各1回、「そうだね」を2回、計4回使用しており、「寅」の中では最も「そうだ」の使用数が多い人物である¹²。御前様の使用例を2例挙げておく。

- (1) [大学の助手の御前様の姪の礼子がとらやに下宿することになった]

さくら:あのを、何を研究なさってるんですか

¹¹ 「コトー」にはコトー(=後藤健助)の母による2度の「そうよ」の使用がある(例「先生、よくおっしゃってたそうよ」)が、「そうだ」の使用例には入れていない。これは「だ」の使用を回避する女性の文体に属し、[ソウダ]の出現形の1つではあるが、「そう+終助詞」に分類される例である。

¹² 御前様以外で[格高][男][老人]が該当する「そうだ」の使用者に、散歩先生、颯(ひょう)一郎の2人がいる。散歩は寅次郎の商業学校時代の恩師、颯一郎はさくらの夫(諏訪博)の父で元大学教授であり、どちらも「先生」と呼ばれる人物である。

礼子：あ、考古学です

竜造：ほう

御前様：なにしろ変り者でねえ。将来学者になってノーベル賞をもらいたいそうだ

礼子：まあ、おじさま (第16作「葛飾立志篇」1975年公開)

(2) さくら：あー、遅くなっちゃって。あら

つね：ちょっと、御前様がわざわざお見送りに来て下さったんだよ

さくら：まー恐れ入ります

御前様：満男君も行くそうだね

さくら：こんな機会にでもおじさんの故郷を見せてやりたいと思ひまして

(第32作「口笛を吹く寅次郎」1983年公開)

「そうだ」は寅さんのように〔格高〕に該当しない男性が使用することもあるが、その場合は「粗野・ぶっきらぼう・ぞんざい」という、否定的なイメージの人物像につながることになる。一方、御前様の「そうだ」の使用は、格高の人物の威厳が感じられ、こうした人物にふさわしいスタイルとして周囲から肯定的に受け止められているように思われる。

3つのデータの中で女性が使用した唯一の「そうだ」の例として、寅次郎のおばのつねによる次の発話例がある。

(3) 桃枝：あら、おばちゃんこんにちは

つね：こんにちは旦那さん、やり手なんだって、御徒町に大きなお店持ったそうだねえ。何の商売？

桃枝：ゴルフ用品。自分が好きなもんだから。〔後略〕

(第30作「花も嵐も寅次郎」1982年公開)

つねは飾らないタイプのさっぱりとした気性の下町のおばちゃんだが、つねの「そうだ」の使用が自然なのは、終助詞の「ねえ」を伴うものだからである。言い切りの「そうだ」は男性的で偉そうなニュアンスを伴うため、女性は通常、使用しない形式である。一方、(3)の「そうだねえ」は、直前で使用されている上昇調の「んだって」とほぼ同様の機能を持ち、話し手が得た伝聞情報について、聞き手に保有が見込まれる情報との一致を確認する表現である。つまり、情報の伝達ではなく、確認要求表現であることにより、「そうだ」に随伴しがちな、偉そうなニュアンスが消え、つねのような気性の女性なら使用する可能性が生じるのである。

5. 2 「んですって」を選好する話者の発話キャラクタ

「んですって」は「んだって」に比べると使用頻度がかかなり低く、〔ンダッテ〕の合計使用数に占める割合は、「寅」では15%、「CEJC」では10%程度にとどまる。どちらのデータでも女性話者が使用する割合が高く、男女別使用数は、「寅」では男3に対し女33で11倍、「CEJC」では男29に対し女68で約2.3倍である¹³。粗頻度での比較で厳密さには欠けるが、以下では、1)「んで

¹³ 「寅」で女性の「んですって」の使用頻度が高い理由は、出演時間が長いさくらの10回の使用が端的な要因だと考えられる。一方、「CEJC」における発話時間・語数の男女比は、それぞれ男性が女性の約81%、85%で、女性のほうが勝っているものの、極端な偏りは回避されているといえる（小磯ほか2022: 25表3.3を参照）。また、「寅」と「CEJC」での男女差の縮小は、2つのデータの時代差によると考えられる。「寅」（1969年～1995年上映）と「CEJC」（収録年2016年～2020年）の間には、約半世紀の時代差があり、最近の日本語における言葉づかいの男女差の縮小を端的に反映する現象として理解可能である。なお、CEJCの収録年に

すって」の使用頻度が「んだって」よりも極端に低いという現象、および、2) 女性のほうが男性よりも「んだって」をよく使用するという現象の存在を指摘し、その理由を話者の発話キャラクターと関連づけて考えてみたい。

結論を先取りして述べると、「んですって」は、[上品]¹⁴な人物であるという自己認識をもつ話し手が、親しい間柄の相手として聞き手を遇しよう意識している場合に使用される形式で、やや年輩の[女]に選好される傾向がある。すなわち、「です」は聞き手に対する丁寧さよりも、上品な話し手としての品位保持を意図して使用されており、中途終了のテ形で発話が終止している点で、改まり度が高い形式とはいえない。したがって、日常的な場面において、社会的に同等ないしはやや下位の親しい聞き手に対して使用されるのが普通で、改まった場面において、明らかに社会的に上位の相手に対しては不適切であり、通常使用されることはない。

以下では、CEJCで「んですって」の使用数が12回で最上位の道枝(話者ID: K008_013)という女性、および男性話者で最上位の永井(話者ID: T005)という男性の発話を取り上げ、聞き手との関係性や発話キャラクターの特徴を観察しておきたい。

道枝は、60-64歳の出身地・居住地ともに神奈川県のプロ主婦だが、同一の会話中に「んですって」を12回使用している。会話の相手は東京都出身・神奈川県居住の久美(話者ID: K008)という50-54歳の女性で、2人の話しぶりから親しい間柄の友人同士であることが推察される。「んですって」が使用された会話の断片を2例挙げておく¹⁵。

(4) [昭和天皇のご成婚の時に贈られた飾り棚が話題]

道枝　　でやっぱり一対なの。
久美　　ふーん。
道枝　　あの天皇陛下用と皇后さま用と。
久美　　うん。皇后さま用か。
道枝　　でえっとあの方は良子女王つつったんだよね?。
久美　　はい。
道枝　　良子さんつつて。
久美　　はい。
道枝　　んでえっとちょうど結婚する時えーがあの震災の時だったんですって。大正の。
久美　　あ。関東大震災。
道枝　　うん。 (K008_015)

道枝のほうが年上であることもあり、道枝の発話は普通体基調で行われているが、会話全体を見ると、久美の発話は丁寧体基調で行われている。会話の主導権は道枝にあり、テレビ番組の内容を説明する談話で「んですって」を多用している。一方、久美の発話は道枝の発話への反応の相づちや応答詞、感動詞など実質的内容を伴わない短いものが多い。

については<<https://www2.ninjal.ac.jp/conversation/cejc/design.html>>を参照した。

¹⁴ 定延(2020: 226-227)によれば、「[上品]とは、当該社会の文化制約から逸脱せず、その中におとなしく、慎み深く、控え目におさまるが、その行動は「制約を遵守しなければ」という意識を感じさせず、あくまで自由で美しく見える人間の素性である」とされている。

¹⁵ 例文は転記テキストからコピーしたものに対し、中納言の検索結果も参照し調整を加えたものである。発話単位末を表す「。」と疑問上昇調を表す「?」は残したが、これら以外の転記テキストのタグは、読みやすさを考慮し削除してある。

道枝は同じ会話で「んだって」も3回使用しているが、次の(5)は、「んだって」「んですって」が連続して使用された例である。

(5) [古代中国の歴史に関するテレビ番組が話題]

道枝 あの殷墟があつて。あのその前の一番最初の夏ってゆうのが。
久美 うーんうんうん。
道枝 だから約えーと四千年前か。のその時に禹ってゆう王さまがいらして。
久美 はい。
道枝 でそのあの禹王のえーと石碑が足柄市に南足柄市に。あるんだって。
久美 えー。あるの。えー。
道枝 で調べてみたら日本各地に百二十四カ所だか あるんですって。
久美 うーん。そうゆう石碑が。
道枝 うん。

(K008_015)

(5)において道枝は「んですって」と「んだって」を併用しているが、当該会話中の使用数を見ると、それぞれ12回、3回でかなりの差が認められ、「んですって」を好んで使用していることが分かる。道枝の「んですって」選好の動機は、年下の久美を丁寧に待遇するという意識よりも、上品な言葉づかいをする人物として自らを位置づけ、その品位保持の意識に基づくものではないかと考えられる。道枝の発話の文体が普通体基調であることを考慮すれば、「んだって」を使用しても何ら不自然ではないはずだからである。

次に男性話者で「んですって」の使用が最上位の永井の例を観察する。永井は出身地・居住地ともに東京都の34-39歳の「会社員・専門職等」の男性で、「んですって」を6回、「んだって」を5回、「そうです」を1回使用しており、3つの変種の使い分けが観察される話者である。次の(6)は、亀山、新井という町内会の役員と飲食店で飲みながらの会話である。亀山は出身地・居住地ともに東京都の35-39歳の「自営業・自由業」の男性、新井は45-49歳の茨城県出身・東京都居住の「会社員・専門職等」の男性である。

(6) [「むらさき」という名前の店が話題]

亀山 だ早くさむらさきも潰れればいんだよ。面倒くせえから。あそこ。
永井 でもどこにン。
新井 あそこゼン何あの店閉めんの?。
亀山 あのむらさきもやっぱり。
永井 ンなんかね売っちゃったんですって。
亀山 圭ちゃんの人に売っちゃったんだって。
永井 いや。
新井 あ。
永井 石井さんから聞いたんですよ?。

(T005_011a)

興味深いのは、年齢も近く比較的親密な友人同士であることが窺われる3人のうち、永井が丁寧体基調の文体を選択しているのに対し、他の2人は普通体基調で話している点である。例えば、永井の「んですって」の発話に続く亀山の発話では「んだって」が使用されている。永井は親しい関係の友人に対しても、品位とたしなみを備えた「紳士キャラ」の話し手として自らを位置づけ丁寧体を選択している可能性がある。(6)が採取された会話ID: T005_011aでは、計2度の「ん

ですって」が使用されているが、これ以外にも2つの会話(T005_0005、T005_010)で、計4度「んですって」が使用されている。これら2会話は、年輩の男女が飲食店に集合している「元都議会議員の支援会」と「後援者の会合」の会話で、永井は出席者の中で一番若い人物である。2会話における永井の4度の「んですって」の選択は、あまりフォーマルではない場面で、年齢の上位者に対する配慮がその主たる要因となっていると考えられる。

参考までに、永井が「んだって」を使用している会話の場面や参加者の特徴について補足しておこう。永井はT005_002、T005_007、T005_008という3つの会話で計5回「んだって」を使用している。最初の会話は自宅で配偶者と娘と食事を取りながらの会話、2番目は実家に家族が集まり昼食を取りながらの会話、最後は同級生の男性2人と飲食店で飲みながらの会話である。永井は、仕事上の友人に対しては年齢が近くても「んですって」を使用しているが、一方、家族や同級生に対しては「んだって」を選択している。相手との心理的距離の近さを反映した結果と考えられるが、動機はそれにとどまるものではない。すなわち、TシャツとYシャツを着分けるように、相手や場面にふさわしい表現や文体の選択によって、相手に与える自己イメージの演出を図っていると考えられるのである。永井が唯一「そうです」を使用している「飲食店で後援者との会合」(T005_010)の会話があるが、永井以外の6名の話者は60代後半から70代前半の男女で、全員永井よりも年長者である。テ形終止の「んですって」よりも若干改まり度の高い終止形の「そうです」が選択されているのはその反映の可能性はあるが、丁寧度の差はわずかなものである。

文体の選択は、聞き手をいかに待遇するかという他者への配慮の表示にとどまらず、たしなみのある言語使用者としての品位の保持、自己イメージの演出といった、自分の姿を他者にどう見せるかという自己目的に動機づけられて選択されていることが窺われるのである。

5.3 「んだって」は「そうだ」の代替表現か

この節では、「(んだ)って」(=「って」「んだって」)を「そうだ」の代替表現と捉える小西(2011)の説明の妥当性に対し検討を試みる。その方法として「んだって」の実例を対象に、それを丁寧体に変換した「んですって」の例に対し「んだそうです」「そうです」による置換テストを行いその結果を分析する。

検討の対象とする例は、「CEJC」の会話ID: T021_014のもので、同一の会話で1人の話者が使用した52の「んだって」の例である。話者の船戸は鹿児島県出身・東京都居住の65-69歳の「自営業・自由業」の女性である。同郷の中学校の後輩が3年前に病死し、泊りがけで浜松までお墓参りに出かけ、そこから帰宅後に、残された亡き友人の妻(やはり同郷の後輩)から聞いた亡夫の最期までの話を夫に報告する会話である。自宅で夕食を取りながらの会話で、聞き手が夫のため会話は終始普通体基調で行われ、伝聞形式には「んだって」が一貫して使用されている。

船戸は「CEJC」における「んだって」の使用回数が最上位の話者で、参加した全会話を合計すると78例の使用がある¹⁶。「んですって」も1度だけ使用しているが、基本的に「んだって」を好んで使用していることが窺われる。親しい友人や家族との会話が多いことがその理由と考えられるが、人との間に距離をおかず、自分を飾らないざっくばらんな船戸の気性も影響している可能性がある。

¹⁶ 図2で、65-69歳の女性の「んだって」の使用数が突出しているのは、船戸による78回の使用がその決定的誘因となっていると考えられる。

以下の表は、「んだって」の52例を前接述語の品詞と活用形によって分類し、その使用回数を整理したものである。

表7 会話 ID: T021_014 における「んだって」の使用状況

前接述語品詞	活用形	使用数	例・注
動詞	Vル	14	「五万円するんだって」
	Vタ	14	「高熱が出たんだって」
	Vテイル	5	「一人で暮らしてんだって」 出現形はすべて「Vて」
	Vテイタ	4	「ゆってたんだって」 出現形はすべて「Vてた」
イ形容詞	Aイ	3	「残業が多いんだって」
ナ形容詞	Naナ	2	「有名なんだって」
名詞	Nナ	5	「浄土真宗なんだって」
	Nダッタ	5	「病気だったんだって」
合計		52	

表の数値が示す通り、前接述語は動詞述語が大半を占め、合計37例の使用が認められる。一方、イ形容詞・ナ形容詞・名詞述語の使用は合計しても15例でその半数以下である。

以下では、前接述語の品詞・活用形別の代表例を1例ずつ挙げ、述語品詞とその活用形を例文末の()内に記号で示す。すべてID: T021_014の会話での船戸の発話の例である。

- (7) しょっちゅうね不動産屋からね 売れ売れって来るんだって。(Vル)
- (8) でその亡くなる一年前にねもうすごい高熱が出たんだって。(Vタ)
- (9) でまたねこのオリンピック景気でね家賃がどんどん上がってんだって。(Vテイル)
- (10) 結構ね血液検査で引っかかかってたんだって。(Vテイタ)
- (11) ほんでね加藤証券はねえと過労証券でゆわれるぐらい残業が多いんだって。(Aイ)
- (12) でもねやっぱ加藤証券でゆうところはね顧客が必要なんだってき。(Naナ)
- (13) そしたら 駅までね三十秒なんだってき。下って行って。(Nナ)
- (14) 家賃二十万だったんだって。もう狭い。(Nダッタ)

さてここで、上記の例における「んだって」を丁寧体の「んですって」に変え、「そうです」による置換の成否を観察する。「んだって」が普通体「そうだ」の代替表現として機能しているのなら、丁寧体「そうです」に対応する表現は「んですって」と考えられ、「んですって」と「そうです」の間には置換関係が成立すると想定されるからである。テストには「んだそうです」「そうです」の2形式を用いて置換後の例の自然さを観察することにしよう¹⁷。

- (7)' しょっちゅう不動産屋が売れ売れって来る {んですって/んだそうです/#そうです}。
- (8)' その亡くなる一年前にもうすごい高熱が出た {んですって/んだそうです/#そうです}。
- (9)' このオリンピック景気で家賃がどんどん上がっている {んですって/んだそうです/#そうです}。

¹⁷ 置換テストに「そうだ」ではなく、「んだそうです」「そうです」を使用する理由は、音声言語では「そうだ」の使用が少なく、CEJCではわずか1例しか使用されていないという事実を考慮してのことである。

- (10)' 結構血液検査で引っかかっていた {んですって/んだそうです/#そうです}。
 (11)' 加藤証券は残業が多い {んですって/んだそうです/#そうです}。
 (12)' 加藤証券というところは顧客が必要 {なんですって/なんだそうです/だ#そうです}。
 (13)' 駅まで下って行って三十秒 {なんですって/なんだそうです/だ#そうです}。
 (14)' 家賃二十万だった {んですって/んだそうです/#そうです}。

置換後の例を観察すると、「んですって」に意味が近いのはいずれの場合も「んだそうです」である。一方、「そうです」は文法的には可能だが、意味的には等価とはいえないと判断される（#でそれを示す）。

本稿では、小西（2011）の説に対し、以下の(15)を当面の結論として提示しておきたい¹⁸。

- (15) 「んですって」からの置換テストで意味・機能的に近いのは「そうです」ではなく「んだそうです」である。したがって「んだって」が代替表現として機能しているのは、「そうだ」ではなく「んだそうだ」である可能性が高い。

「んだって」と「んだそうだ」、および「んですって」と「んだそうです」は、一見、意味的に対応しているように見えるが、現実の談話で使用された例には微妙な差異が認められ¹⁹、等価性の認定には慎重さが求められる。最終的な判断を下すためには、[ッテ]の例も加え、場面や談話ジャンルの違いを考慮した注意深いデータの観察・分析が必要と考え、これを今後の課題としたい。なお、「んだって」「んだそうです」において[ノダ]が果たしている機能については、5.5節で改めて検討を行う。

5. 4 「んだって」の使用を回避する話者の特徴

最後に「んだって」の使用の回避が観察される話者の人物特性について観察しておきたい。「CEJC」では「そうだ」の使用例は1例のみだが、「そうです」は一定数使用されている。だが、4.3.1の図1で明らかなように、「んだって」の勢力には遠く及ばない。そこで「CEJC」のデータの中で「そうです」を2度以上使用している話者の中で、「んだって」の使用がゼロの話者に注目し、「んだって」不使用の理由について考えておきたい。

終止形が使用された例に限ると、「CEJC」には23例の「そうです」とそのバリエーション²⁰が観察される。ここでは会話ID: T023_004において、「んですって」を2度、「そうですよ」「そう

¹⁸ (15)の記述は、[ンダッテ]から[ソウダ]への置換テストの結果に基づく結論だが、これと逆方向の[ソウダ]から[ンダッテ]への置換では、異なる現象が観察される。この点については6節の注27を参照されたい。

¹⁹ 例えば、船戸の「んだって」は、船戸が直接本人から聞いた亡き友人の妻の体験談を報告するもので、情報源が不確かな噂話の報告とは根本的に異なるものである。道枝の「んですって」も同様で、道枝が直接視聴したテレビ番組の内容を報告するものである。[ッテ]と[ソウダ]、および[ンダッテ]と[ノダソウダ]の意味的対応の判定に当たっては、話し手の情報内容の捉え方や、「対話」「語り」といった談話のジャンルを考慮した分析の観点が必要で、等価性の認定には慎重さが求められる。

ちなみに、上記の観点の導入に当たり、非常に示唆的な研究として、渋谷（2011）がある。渋谷（2011: 12）は、山形市方言の引用・伝聞形式である「テ系形式」と「ド」の機能の違いを次のように説明している。すなわち、前者は「話し手が、第三者の発話や発話内容、発話行為を、話し手の判断を加えずにそのまま聞き手に渡すことを基本機能とする」のに対し、後者はそれを「自身の知識領域のなかに、妥当な情報あるいは発話行為として取り込んだうえで聞き手に渡すことを基本的な機能とする」という指摘である。[ソウダ][ノダソウダ][ンダッテ]の機能の違いを考察する際に、非常に示唆的である。

²⁰ 「そうです」10例、「そうです+終助詞/接続助詞」6例、「そうじゃないですか」1例、「そうなんです」2例「そうなんです+終助詞/接続助詞」4例の合計数で、「そうで」などの非終止形を除いた数である。

なんですね」を各1回使用しているが、「んだって」は一度も使用していない島井という話者に注目し観察を行っておきたい。

島井は「無職・定年退職」の女性で、出身地・居住地ともに東京都である。都内のお茶の先生の私邸の茶室での雑談場面の会話で、発言内容から年齢は90歳と推定される(収録年2018年)。きちんと着物を着こなし、明瞭な発音で東京弁を駆使する話者である。会話参加者はこの家の主人の指田(唯一の男性)とその妻の紀子(お茶の先生)、およびその4人の弟子たちの計6人である。島井が最年長で、残りの5人は40代後半から60代前半の年齢帯の話者である。島井の「そうですよ」「そうなんですね」各1回、「んですって」2回の使用例を以下に挙げる。

(16) [井の頭公園の桜や梅の木の消毒が話題]

島井 でもね夏に霧のようにあの葉をかけてるんですね。

[中略]²¹

島井 体操の人やなんかをみんな追い出して。

[中略]

島井 そいで霧のようにかけるそうですよ。

大橋 消毒ですね?。

紀子 ええ ええ。

(T023_004)

(17) 島井 ここは明星学園のどこよりもウ川上になるんですか?。

紀子 うん。上ですね。

指田 川上ですよ?。

紀子 上上になります。

深田 上。

島井 あすこはねもうあの家がこうゆう公園がなくて向こう側は家があ道路のすぐ向こうにあるナ並んでるもんですから日当たりが悪いとだいぶ言ったそうなんですね?

深田 うーん。ふん。

(T023_004)

(18) [島井の夫は昭和5年ごろ井の頭公園(の池)で泳いでいたが、水がとても冷たく、水深がとても浅いことなどを聞かされていた]

島井 もうそれがねつべたくてつべたくてね。

指田 ね。ものすごい湧き水だから。

[島井の「つべたい」に反応した複数の話者によるこの語の反復発話が続く]

深田 湧き水がね。

島井 とてもつべたいんですって。

大橋 あー。だつてえほんと江戸っ子でらっしゃるから。²²

紀子 あー。

島井 それでね ボートに乗って落っこつたらねここまでしかムここまでしかなかつたんですって。

²¹ 省略したのは、応答詞・感動詞・反復など、実質的内容を伴わない他の話者による複数の発話である。

²² 島井の「つべたい」の使用が江戸っ子ゆえのことであるという言及である。

約 36 分の限られた会話から受ける印象だが、島井の発話には他の会話参加者とは明らかな相違が認められる。最年長であっても、一貫して丁寧体を使用し、「よくお見つけになりましたね」のような尊敬語、「嬉しゅうございます」「幸せな老後でございます」のような丁寧語を非常に自然かつ自在に使用している。世代が上で伝統的な言葉づかいをしっかりと身に着けている証左といえるが、島井の生い立ちや社会経験の影響も少なくないように思われる。島井は全国に帽子の卸を行う日本橋の帽子問屋の経営者を父に、「旗本の下っ端」の娘を母に誕生したが、幼いころに父が病死したため店は廃業となり、以後、荻窪のおじの家で結婚までの時期を過ごした。師範学校を卒業後、1 学期だけ中学校の教師を務めたが、吉祥寺の男性に嫁いだ後は、NHK の料理番組の助手や婦人雑誌の食育関係の仕事に従事したことなどを語っている。つまり、結婚後も専業主婦ではなかったことが窺われるのである。

データでの話しぶりから察するに、島井は「んだって」を使用しそうにない人物のように思われる。身内に対しては想像の範囲にとどまるが、当該会話中に「んだって」は一度も使用していない（お茶の先生の紀子は夫に対して使用している）。島井の「んだって」不使用の動機は、「だ」の使用回避に基づくものではないかと思われる。「だ」は粗野な男性が使用する形式であり、上品な女性は使用すべきでないという考えが強い時代に育ち、教養ある中流の社会層の出身と推測される島井にとっては、「だ」は使用が強くためられる形式であり、無意識のうちに回避の対象となっていることが窺われるのである²³。

5. 5 まとめ

5 節を終わるに当たり、残る問題を 2 点ばかり挙げ、それに対する簡単な考察を行いまとめに代えたい。考えたいことは次の 2 点である。

1. 「んだって」の使用を回避する動機は、男性話者と女性話者と異なると考えられるが、具体的にはどのような違いか。
2. 「んだそうです」と「そうなんです」における [ノダ] はそれぞれどのような機能を果たしているか。

まず、第 1 の問題だが、「んだって」を使用しそうにない人物の代表は、「寅」の御前様と「CEJC」の島井である。この 2 人が「んだって」の使用を回避する理由・動機は、両者で異なっていると考えられるが、この点をそれぞれが選好する伝聞形式に即して考えておきたい。

まず御前様は、社会的地位や年齢が下位の相手に対しては、基本的に普通体の「そうだ」を使用し、「んだって」は使用しない。御前様にとって、テ形終止の「んだって」はくだけすぎていて馴れ馴れしいニュアンスがあり、自らが属する [格高] の人物としての威厳が損なわれてしまうと感じるからに相違ない。一方、終止形の「そうだ」は改まった書き言葉で使用可能な文体であり、[格高] [男] の御前様であれば、対面的な談話で使用しても否定的評価の回避が可能である。

²³ 定延 (2011: 148) は、女性の「だ」不使用の理由を「体言の文を好む」という点に求めているが、これは文末が普通体の場合に当てはまるものである。丁寧体の名詞文の文末では、「雨よ」「雨ね」ではなく「雨ですよ」「雨ですな」のように、「です」の使用が統語上義務的になるからである。

御前様が「んだって」を回避し、「そうだ」を選好するのはそのためだと考えられる。

一方、島井が「んだって」の使用を回避する理由は、「だ」使用の回避が目的である。男性的で粗野な「だ」体は、[上品]キャラの島井にとっては口にするのはばかられる文体であり、引用であっても使用が避けられるのではないかと思われる。「そうです」「そうなんです」「んですって」を優先的に使用するのはそのためである。社会的地位や年齢が自分よりも下位の相手に対しても丁寧体を好んで使用している島井にとっては、「んだって」は無意識のうちに回避されている文体といえるのではないかと思われる。

以上をまとめれば、御前様の場合は[格高][男]キャラが「そうだ」の使用動機であり、島井の場合は[上品][女]キャラが「だ」を回避する動機として働き、それぞれにおける伝聞標識の選択を決める主要な要因として働いている様子が見て取れるのである。

第2の、そして最後の問題は、[ノダソウダ]と[ソウナノダ]において「ノダ」が果たしている機能の位置づけである。「男はつらいよ」(第7作「奮闘篇」1971年公開)の「んだそうです」の実例、およびそれを加工して作成した「そうです」「そうなんです」の例を(19)に挙げ、比較を試みることにしたい。

- (19) [寅次郎の実母の菊と行き違いになってしまったが、菊はもう二、三日は東京にいる旨を冬子(御前様の娘)に告げるさくらの発話。bが原典のセリフである]
- a. まだ二、三日は東京にいるそうです。
 - b. まだ二、三日は東京にいるんだそうです。
 - c. まだ二、三日は東京にいるそうなんです。

まず、[ノダ]を伴わない(19a)は、「(菊が)まだ二、三日は東京にいる」という内容の伝聞情報を中立的に伝達する発話であると考えられる。

次に「んだそうです」が使用された(19b)であるが、ここでの「んだ」は元発話の話者に帰属するものではなく、その受け取り手かつその新たな伝達者であるさくらに帰属すると捉えるのが適切だと考える²⁴。すなわち、発話時に先行するある時点においてさくらが当該知識を獲得したことを表すのが「んだ」であり(cf. 吉田(2014)「得心」の「のだ」)、その知識が伝聞によるものであることを表すのが「そうです」であると分析可能である。つまり(19b)は、[ノダ]と[ソウダ]が異なる機能を分担しているケースと捉えることが可能な例である。

最後の(19c)は、「そうだ」を含む情報全体が命題化し、聞き手にそれを伝達する態度の表示を「んです」が担っているケースとして分析可能である。すなわち、「当該情報を伝聞により知った」というさくらの情報に対する認識把握のあり方とその内容を伝えるもので、命題を構成する要素の内部に「そうだ」が取り込まれているケースといえる。この場合の「んです」は、[ノダ]の用法分類をめぐる先行研究において、話し手の信念・知識を「伝える」用法とされる[ノダ]に位置づけることが可能ではないかと考える²⁵。

²⁴ [ノダ]が元発話の話者に帰属しないという考え方は、前稿で「ンダッテ」を分析する際にも指摘した。ただし[ンダッテ]の場合は、ノダ文の引用の「んだ+って」に分解可能な例があり、この場合の[ノダ]は、元話者に帰属すると捉えるのが適切である。一方[ノダソウダ]の[ノダ]は、元話者ではなく、伝聞情報の受信者かつ伝達者である現話者に帰属すると捉えるのが適切だと考える。

²⁵ ここでの分析は、安田(2017)の「ノダソウダ」「ソウナノダ」に対する説明を参考に、それを筆者なりに解釈し敷衍して説明を試みたものである。安田の分析は関連性理論の枠組みを採用しているが、筆者の説明はそれとは独立しており、安田の説明をそのまま採用しているわけではない。

6. おわりに

本稿を締めくくるに当たり、観察で明らかになった事実を箇条書きにしてまとめておきたい。前稿で提示した〔ソウダ〕〔ッテ〕〔ンダッテ〕の出現形と前接述語の接続形態の対応関係の表のレイアウトを改変し、表8として以下に再掲する。前接述語が非過去肯定形の例を挙げ、〔ソウナノダ〕は観察の対象外とする。なお、〔ッテ〕については実例が未調査のため、内省の範囲内での見通しである。

表8 〔ソウダ〕〔ッテ〕〔ンダッテ〕と前接述語の接続形態の対応関係

前接述語	〔ソウダ〕		〔ノダウダ〕	
	そうだ	そうです	んだそうだ	んだそうです
Vル	雪が降るそうだ	雪が降るそうです	雪が降るんだそうだ	雪が降るんだそうです
Aイ	寒いそうだ	寒いそうです	寒いんだそうだ	寒いんだそうです
Nダ	雪だそうだ	雪だそうです	雪なんだそうだ	雪なんだそうです
Vル	雪が降るって	?雪が降りますって	雪が降るんだって	雪が降るんですって
Aイ	寒いって	?寒いですって	寒いんだって	寒いんですって
Nダ	雪だって	雪ですって	雪なんだって	雪なんですって
前接述語	普通体+って	丁寧体+って	んだって	んですって
	〔ッテ〕		〔ンダッテ〕	

1. 「そうだ」は居丈高でぞんざいなニュアンスをもつため、対面的な談話での使用は通常、回避される。伝統的な価値観が生きている社会では、格高の男性の使用が肯定的に受け止められてきたが、平等を重んじる現代社会では対面場面で使用する話者は限定的である。
2. 「んだって」は「んだそうだ」の代替表現として機能しているといつてよさそうだが、意味的に等価だとは必ずしもいえない。使用される場面や談話ジャンルの違いを考慮に入れ、用例に対する慎重な観察・検討が必要である。
3. 「んですって」は「んだそうです」よりも改まり度がやや低い伝聞形式である。「んだって」の丁寧体に該当し、中高年の「マダムキャラ」の女性や「紳士キャラ」の男性が社会的に同等、ないしは下位の親しい相手に使用する傾向がある²⁶。テ形で終止する形式のため、改まり度の高い公的場面や社会的上位の相手には用いにくい。
4. 表8の配置では、「そうだ」に対応する形式は「普通体+って」であることが示唆されるが、単純な対応づけは不適切である。「伝聞」と「引用」の機能の差異を考慮に入れ、用例に対する慎重な観察・検討が必要である。
5. 「丁寧体+って」は名詞述語以外には使用しにくく、「そうです」と対応関係をもつとは考えにくい。「って」は引用表示、「そうです」は伝聞表示を本務とする形式であり、こうした機能的齟齬が非対応の原因になっていると考えられる。

²⁶ 小西の質的調査結果を整理した表1で「(んです)って」の使用がゼロだったのは、調査協力者が20代から30代の大学院生の男女であり、紳士キャラ、マダムキャラとは無縁な集団だったことが端的な理由として挙げられる。

1～5の記述が示唆する事実は、表8の接続形態の対応関係と各形式の意味・機能は、1対1に対応しているわけではないということである。この点を念頭に置き[ソウダ][ノダソウダ]と[ッテ][ンダッテ]のレンマ間の置換の成否を内省に基づき判断した場合、前者と後者の間には、おおよそ、表9に示すような重層的な対応関係が指摘可能ではないかという当面での見通しを筆者はもっている。だが、現実の談話・テキストにおける出現形の選択には、ジャンル・文体・媒体・発話キャラクタ等、複数の要因が複雑に絡み、棲み分けが行われていることが予想される²⁷。現実の使用場面における出現形の使用状況や、形式間の機能の対応・非対応状況の観察・検討を今後の課題としたい。

表9 [ソウダ][ノダソウダ]と[ッテ][ンダッテ]の機能の対応関係

	[ソウダ]	[ノダソウダ]
[ッテ]	[ンダッテ]	

残る課題は多いが、その代表的なものを4つほど掲げ、本稿を締めくくりにしたい。

まずその第1は、「伝聞」と「引用」の接点と分岐点の在りかに対するさらなる追究である。2つ目は、[ソウダ]のEvidentiality(証拠性)の体系における位置づけである。第3の課題は、学術的文章で「そうだ」の使用が不適切になる理由の解明である。学術的文章では、「そうだ」の使用が不適切とされ、「という」「と述べている」等の引用形式の使用が推奨されている(鎌田・仁科2013、伊集院・高野2020)が、その理由の追究と説明が必要である。4つ目、そして最も困難な課題は、[ンダッテ][ノダソウダ][ソウナノダ]において[ノダ]が果たしている機能と、その使用の可否や必須性を決める条件の解明である。本稿では安田(2017)の説明を参考に簡単な解説を行ったに過ぎず、掘り下げた考察は未着手の段階である。上記のいずれも容易には解答が得られそうにない課題だが、引き続き辛抱強く取り組み、解答への道を切り拓いていきたい。

参考文献

- 伊集院郁子・高野愛子(2020)『日本語を学ぶ人のためのアカデミック・ライティング講座』アスク
- 井島正博(2011)「主節における非文末ノダ文の機能と構造」『日本語学論集』7: 70-103 東京大学大学院人文社会系研究科国語研究室
- 加藤陽子(2010)『話し言葉における引用表現—引用標識に注目して—』くろしお出版
- 鎌田三千子・仁科浩美(2014)『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ練習』スリーエーネットワーク

²⁷ [ンダッテ]から[ソウダ]へとは逆方向の[ソウダ]から[ンダッテ]への置換では、「そうです」「んだそうです」のどちらも「んですって」による置換が可能であるように感じられる(例「まだ二、三日は東京にいる{そうです/んですって}」「まだ二、三日は東京にいる{んだそうです/んですって}」)。つまり置換の方向性により、自然さの判定に相違が生じるのである。また「CEJC」で「んだそうです」の使用がゼロであるという事実は、内省での置換関係の成立を根拠に、意味・機能の等価性の認定を行うという方法自体を見直す必要性を示唆する現象である。伝聞表示形式の2系列間の共通性と差異の分析に当たっては、意味・機能の等価性を一旦疑問視したうえで、情報の意味特性、命題内容・元の発言に対する話し手の認識・把握のあり方、聞き手への伝達態度、文体・媒体、発話キャラクタ、談話・テキストのジャンル等、複数の要因を考慮に入れた複眼的な視点に立つ分析の姿勢が求められているのである。

- 小磯花絵・天谷晴香・石本祐一・居關友里子・臼田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉・渡邊友香 (2022) 『日本語日常会話コーパス—設計・構築・特徴—』(国立国語研究所「日常会話コーパス」プロジェクト報告書 6)
- 小西 円 (2011) 「使用傾向を記述する—伝聞の [ソウダ] を例に—」森篤嗣・庵功雄編『日本語教育文法のための多様なアプローチ』 pp.159-181 ひつじ書房
- 定延利之 (2011) 『日本語社会 のぞきキャラくり 顔つき・カラダつき・ことばつき』三省堂
- 定延利之 (2020) 『コミュニケーションと言語におけるキャラ』三省堂
- 渋谷勝己 (2011) 「山形市方言における引用・伝聞形式のテとド」『阪大社会言語学研究ノート』9: 1-13
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 中俣尚己 (2014) 「伝聞の「そうだ」の伝えるもの—機能語と実質語のコロケーション研究—」『京都教育大学国文学会誌』41: 114-130
- 仁田義雄 (2014) 「伝聞¹」日本語文法学会編『日本語文法事典』 pp.430-431 大修館書店
- 蓮沼昭子 (2015) 「終助詞「さ」の本質的機能—認識的モダリティとの共起関係に着目して—」『日本語日本文学』25: 1-27 創価大学日本語日本文学会
- 蓮沼昭子 (2016) 「「ソウダ」と「ンダッテ」—伝聞と引用の間—」『日本語教育連絡会議 (2015) 論文集』Vol.28: 23-35
- 蓮沼昭子 (2024) 「「ソウダ」と「ッテ」「ンダッテ」—「伝聞」と「引用」の接点と分岐点—」『日本語教育連絡会議 (2023) 論文集』Vol.36: 18-30
- 藤田保幸 (2014) 「引用」日本語文法学会編『日本語文法事典』 pp.35-36 大修館書店
- 松下晶子・丸山岳彦 (2018) 「脚本テキストに基づくコーパス文体論の可能性—テレビドラマ脚本に注目して—」『言語資源活用ワークショップ 2018 発表論文集』 pp.257-266 国立国語研究所
- 森山卓郎 (1995) 「「伝聞」考」『京都教育大学国文学会誌』26: 25-36
- 安田崇裕 (2017) 『ノダの本質的機能に基づく諸形式の統一的分析』北海道大学博士論文
- 吉田茂晃 (2014) 「ノダ²」日本語文法学会編『日本語文法事典』 pp.481-483 大修館書店
- Aikhenvald, Alexandra Y. (ed.) (2018) *The Oxford Handbook of Evidentiality*. Oxford: Oxford University Press.
- Narrog, Heiko and Wenjiang Yang (2018) Evidentiality in Japanese. In: Aikhenvald (ed.) 709-724.

調査資料

[コーパス]

国立国語研究所『日本語日常会話コーパス』(CEJC) 有償版 (2022年3月31日 本公開 中納言 2.7.2 データバージョン 2023.03)

[シナリオ]

山田洋次ほか (1969-1995) 『男はつらいよ』シリーズ 全シナリオ (48 作) 日本語教育支援システム研究会『CASTEL/J CD-ROM V.1.2』1998 所収

吉田紀子 (2014) 『Dr.コトー診療所 2006』小学館 (電子書籍版)